

わがまちの 巧み

このコーナーでは、地域に根付いている伝統工芸や地域ならではの活動をされているみなさんを紹介していきます。

「みとや工芸会」

今月は、三刀屋町内で和紙や木彫、焼き物の創作活動をしている「みとや工芸会」の5人を紹介します。



永見窯
陶芸家 永見克久さん



白磁工房
陶芸家 石飛勝久さん



御門屋窯
陶芸家 須山英一さん



斐伊川和紙
和紙工芸 井谷伸次さん



木彫り
木彫工芸 景山孝三さん

みとや工芸五人展

みとや工芸会は、陶芸の永見窯の永見克久さん、白磁工場の石飛勝久さん、御門屋窯の須山英一さん、斐伊川和紙の井谷伸次さん、木彫りの景山孝三さんの5人で構成。「同じ地域で工芸に取り組み同志で集えば、お互いの創作活動への刺激にもなり、技術向上にも繋がるから」と、それぞれの作品を持ち寄り展示会を開いたのが平成元年。以来、みとや工芸五人展として、町内をはじめ全国各地で展示会を開いてきました。

12月9日から11日にかけて、雲南コミュニティホールで開催された五人展には多くの来場者が訪れ、手仕事による工芸美を楽しんでいました。

永見窯

陶芸家 永見克久さん

永見さんは、給下にある峯寺参道沿いの窯で、茶碗や皿など食器を中心とした陶器を焼きあげています。

「勝負はテーブルの上だと思っています。贅沢な趣味の器でなく、使いやすく、温もりのある陶器作りを心がけています。多くの人に実際に使ってもらいたい、魅力を知ってもらいたい」

と語る永見さん。最近では「三刀屋鉢」という地元の名を入れた作品も手がけています。



永見窯

白磁工房

陶芸家 石飛勝久さん

石飛さんは、昭和59年に鍋山に築窯され、白磁器を中心に陶芸活動をされています。

陶芸歴48年のベテランですが、創作には「長年の勤と基本を大切に、使いやすく、繊細な線をいかに出すか。そして、シンプルで、飽きのこない作品づくりを日々心がけています」と話してくれました。また、長男の勲さんが、窯の技と伝統を受け継ぐため、現在修行中で、勝久さんは「どんな人からも愛される器を作って欲しい」と心境を語ってくれました。



白磁工房

御門屋窯

陶芸家 須山英一さん

須山さんは、昭和59年に三刀屋地内に初窯を構え、現在、多種多様な釉薬（上釉）を使い、微妙な焼きあがりや風合いを楽しみながら、創作活動をされています。

「普段使っている器を、遊び心を入れて作り、そして、遊んで使ってもらおう。そんな作品づくりをしています」とユニークな発想で作品づくりに臨む須山さん。間もなくできる予定の新しい窯とともに「茶器からきた陶器ですが、わび・さびにとらわれず、斬新で、個性あふれる作品づくりを続けたい」と創作活動への意欲を語ってくれました。



御門屋窯

斐伊川和紙

和紙工芸 井谷伸次さん

江戸時代から続く、伝統ある斐伊川和紙の7代目を襲名されている井谷さん。初心を忘れず、多くの人との出会いを大切にしながら、1枚1枚丁寧に漉いています。

今回の展示会では「遊ぶ」をテーマに、「暮らしの中に、温かみのある空間を作ってもらえたら」と作品づくりに励まれました。



斐伊川和紙

木彫り

木彫工芸 景山孝三さん

「雲南市は、心が落ち着ける場所だから、いい作品ができる。日々新しい発想で、心を込めた作品づくりを続けていきたい。また、ぜひ海外でも展示会をしてみたい」と抱負を語ってくれました。

景山さんは、鍋山地内の工房で、自然木を利用したふくろうの木彫りに取り組まれています。景山さんとふくろうとの出会いは昭和61年。裏山から聞こえてくるふくろうの声に運命的な機縁を感じて以来、木彫りふくろうの創作を続けてきました。



木彫り

みとや工芸会

みとや工芸会の作品は、それぞれの工房で見ることが出来ます。

- 永見窯 永見克久さん ☎0854-45-3633
- 白磁工房 石飛勝久さん ☎0854-45-4514
- 御門屋窯 須山英一さん ☎0854-45-3391
- 斐伊川和紙 井谷伸次さん ☎0854-45-3880
- 木彫り 景山孝三さん ☎0854-45-2492